

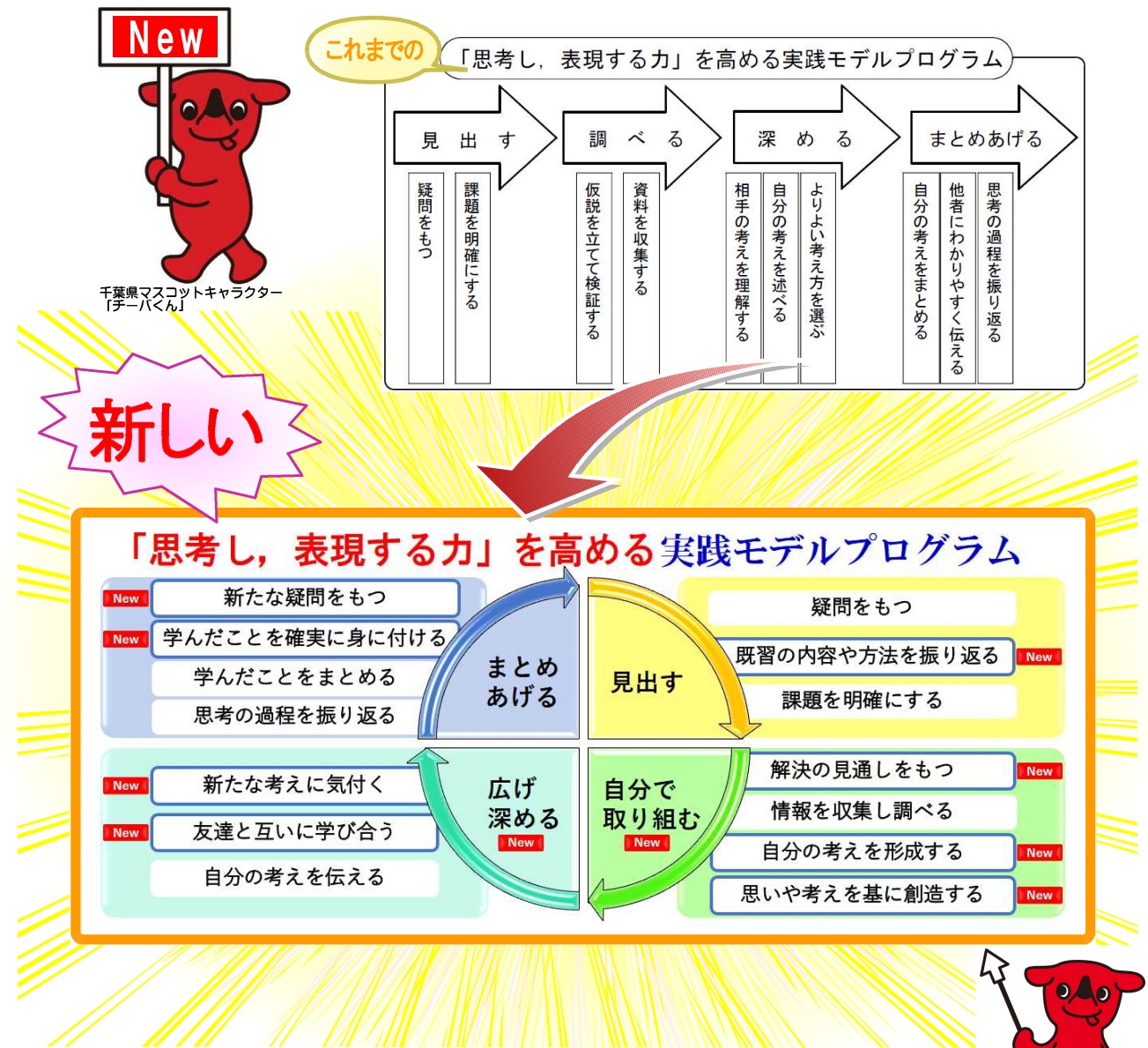
4 実践モデルプログラムを活用した授業のためのチェックシート

授業の前に	<input type="checkbox"/> 本時（本単元等）を通して、資質・能力が育成された児童生徒の具体的な姿を、観点別の目標に基づいて描いている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の、発問に対する反応や課題に対する考えを予想している。 <input type="checkbox"/> 本時（本単元等）で資質・能力の育成ができたか評価する手立てを準備している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解している。 <input type="checkbox"/> 「見方・考え方」を働かせた児童生徒の思考の過程が表れるような板書を計画している。
見出す	<input type="checkbox"/> 児童生徒が自ら疑問をもつことができるような資料や発問を準備している。 <input type="checkbox"/> 既習の内容や方法を振り返る場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が課題を明確にすることができるように、疑問を整理して焦点化している。 <input type="checkbox"/> 本時（本単元等）の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に明示している。
自分で取り組む	<input type="checkbox"/> 児童生徒が解決の見通しをもつことができるように、学習のめあてや既習の内容との相違点等を児童生徒とともに確認している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように、取り組むときの視点や思考の進め方を指導している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒一人一人の様子を把握し、早めに解決できた児童生徒や、つまづいてしまっている児童生徒に対する次の手立てを準備している。
広げ深める	<input type="checkbox"/> 児童生徒が自分の考えを伝える場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら根拠とともに自分の考えを伝えることができるように、伝えるときに意識すべきことを指導している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が友達の考えを聞き、疑問点を問い直すことができるように、自分の考えと比べながら聞くなど、聞き方の指導をしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が新たな考えに気付くことができたか確認し、個に応じた助言をしている。
まとめあげる	<input type="checkbox"/> 児童生徒が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 「深い学び」につながる本時（本単元等）のまとめを、児童生徒の言葉で予想し、準備している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が学んだことを確実に身に付けるために、練習問題等に取り組んだり、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えたりする場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が新たな疑問をもつことができるような発問を準備している。

\*上記の項目は、毎時間（もしくは毎単元）全ての項目を達成することを推奨するものではありません。授業改善の視点として、指導案の作成や校内研修等で御活用ください。

**「思考し、表現する力」を高める  
実践モデルプログラムが  
生まれ変わります！**

千葉県教育委員会

新学習指導要領においては、各教科の指導に当たって、児童生徒に育成すべき資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

千葉県教育委員会は、そのための手立てとして『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』の内容に「主体的・対話的で深い学び」の視点を加えました。

本プログラムは「モデル」であり、自校の学習指導過程と照らし合わせるなど、授業改善を行うための参考資料として活用してください。

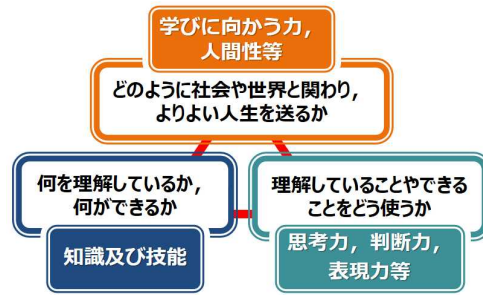




### 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

児童生徒の資質・能力（右図参照）の育成を目指した授業改善の取組は、これまでも多くの実践が重ねられています。『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善とは、今までとは全く異なる指導方法の導入を意図するものではありません。

これまでの学校教育の蓄積を生かし、各教科等における優れた授業に共通し、かつ普遍的な要素である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図ることが大切です。



### 2 千葉県の子どもの学力に関する実態について

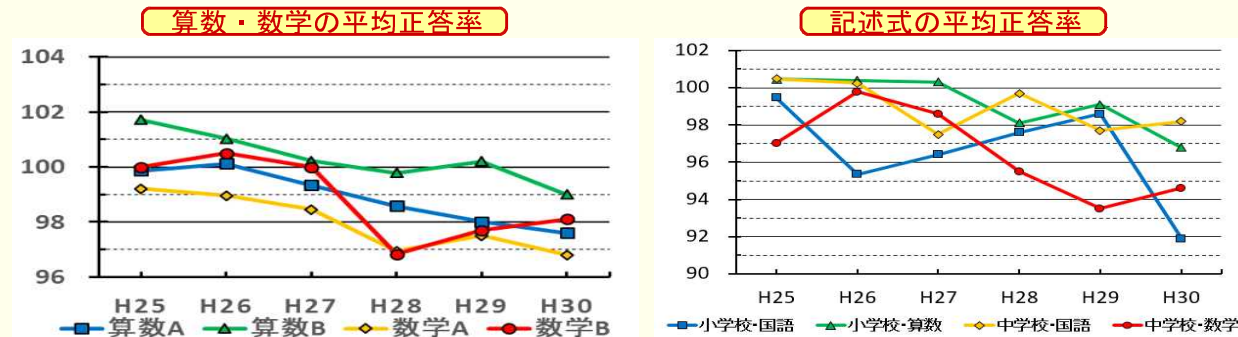
全国学力・学習状況調査の過去数年の結果を見ると、全国と比べた本県の児童生徒及び学校の実態として、以下のような課題がありました。

#### 【教科に関する調査から】

▽算数・数学の正答率が低く、継続的に低下傾向にある。特に、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみるA問題の正答率が低い。

▽「記述式」の正答率が低い傾向にある。

#### 全国学力・学習状況調査における千葉県の結果



※グラフは全国を100としたときの指数で示しています。

#### 【児童生徒質問紙調査から】\*「主体的・対話的で深い学び」に関連する質問

▽学習への関心等が、やや低い傾向にある。

▽「解答を言葉や数、式を使って説明する問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか。」等、自分の考えを最後まで記述することに関する質問への肯定的な回答が、低い傾向にある。

▽「発表する」「最後まで聞く」「話し合う」等ができているとの回答が、やや低い傾向にある。

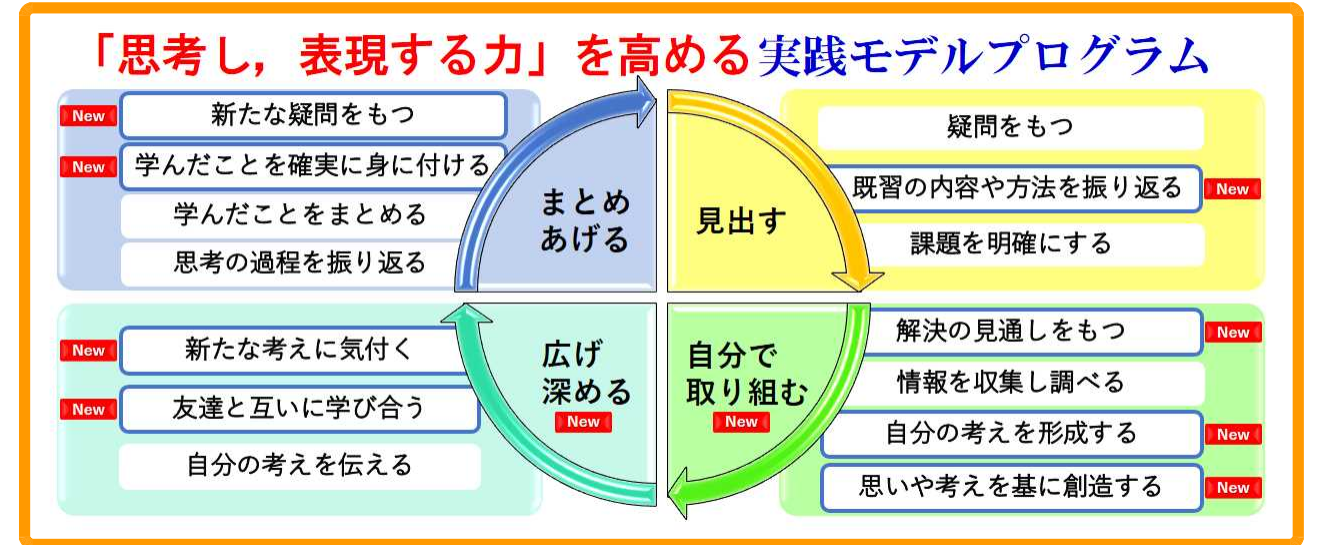
#### 【学校質問紙調査から】\*「主体的・対話的で深い学び」に関連する質問

▽「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。」等の指導方法の工夫改善に関する質問への肯定的な回答が、やや低い傾向にある。

◎「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。」「校外の教科教育に関する研修会等に定期的・継続的に参加していますか。」等、校内・校外研修に関する質問に対する肯定的な回答は、全国と比べて高い傾向にある。

児童生徒の実態を学校全体で共有し、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』をより一層活用し、全ての教職員で授業改善に取り組むことが大切です。

### 3 新しい実践モデルプログラムについて



#### まとめあげる

思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる過程です。また、練習問題等に取り組んだり、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えたりすることで、学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもち、次の学習への更なる意欲や見通しにつなげる過程です。

#### 見出す

前時までの学習内容や提示された資料等を基に疑問をもち、本時（本単元等）で解決していく課題を明確にする過程です。また、「これからの学習がどのような意味をもち、何を狙っているものなのか」等を認識しつつ、主体的に学習に取り組もうとする過程です。

#### 広げ深める

「見方・考え方」を働かせながら自分の考えを伝え、友達の考えを聞いて疑問点を問い直すなど、互いに学び合うことを通して、多様な考えを理解する過程です。また、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりすることを通して、学びをより質の高いものとする過程です。

#### 自分で取り組む

解決の見通しをもち、自分で考え、粘り強く課題に取り組む過程です。また、「見方・考え方」を働かせながら、収集した情報を調べたり、自分の考えを形成して文章や言葉、図、式等で表現したり、自分の思いや考えを基に作品等を創造したりする過程です。

※「見方・考え方」とは、「深い学び」の鍵となるものであり、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のことであり、教科等を学ぶ意義の中核をなすものです。

「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。

大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。